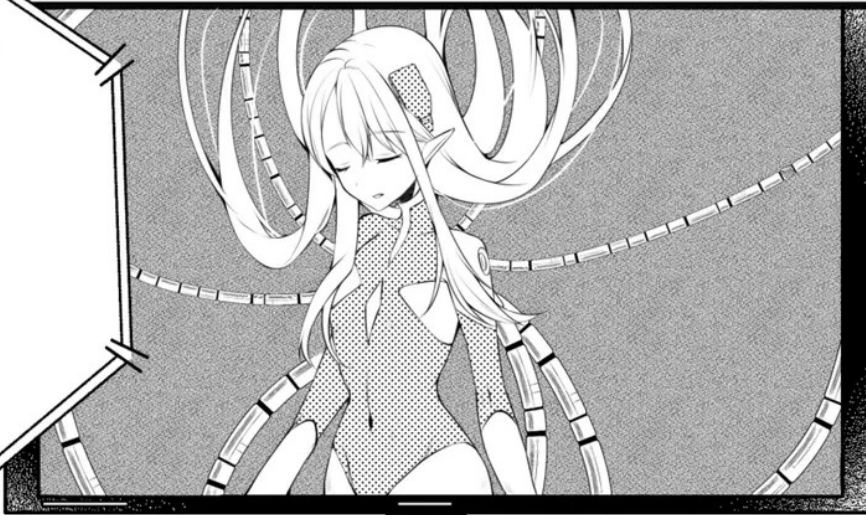


最新AIがわたしたちの
住むこの街の全てを
管理しより快適に！



電気 水道 医療

はあ

全部任せたら
みんな支配されて
しまうんじゃないかしら

厳重なシステム
だからそれはないって
学校で学んだよ

菜々美は本当
優等生だな

馬鹿兄貴
うるせーよ

なんだと!?

やめなさい！
二人とも！
いっつも喧嘩して

ギア

ギア

ギア

はいはい
優等生の
奈々美ちゃん

探索隊（私たち）が
妖精が支配する
未来の世界にやってきて
あれから一ヶ月……



ナナとミトは
毎日どこからともなく
飛んできて
わたしたちと戯れ遊ぶー

妖精の正体は
暴走したAIによって
作り替えられた元人類

あはははは

じゅんこ
もっとやって

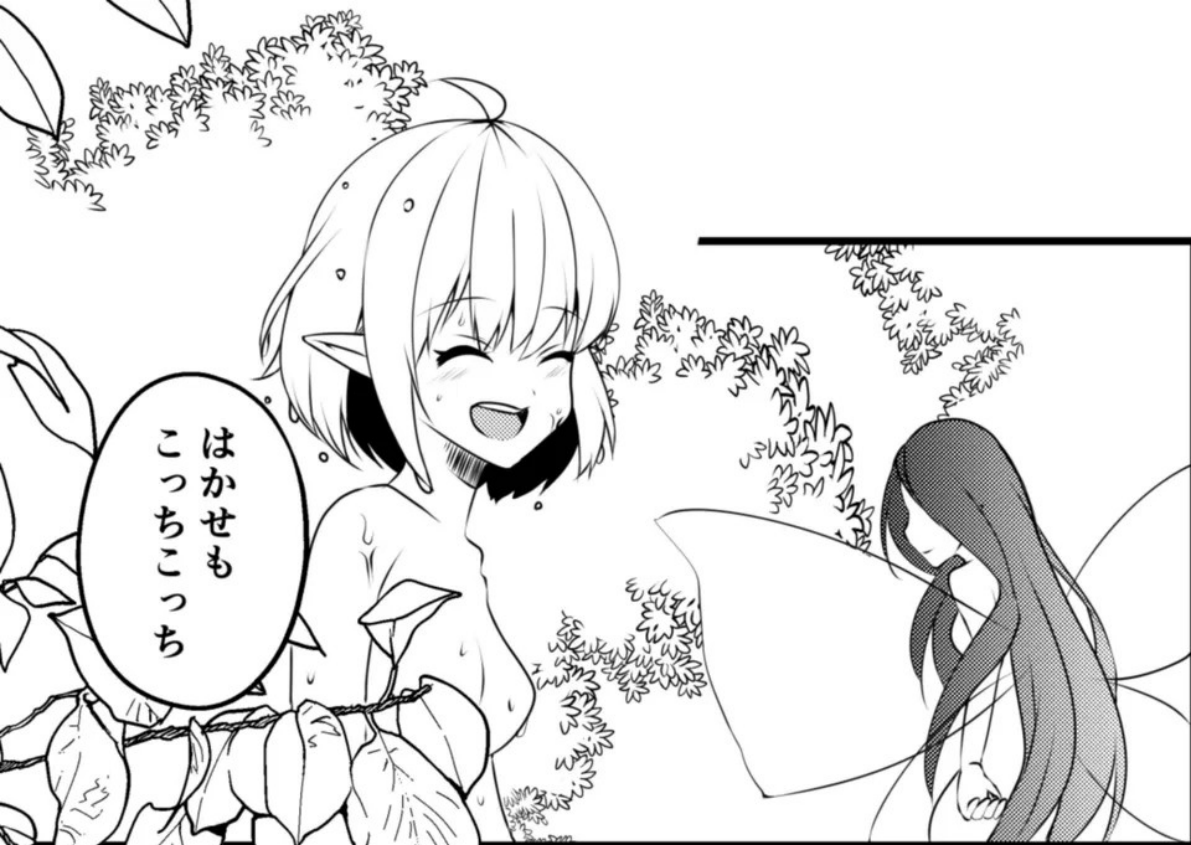
博士の息子と娘も
その暴走に巻き込まれ
その際に母が亡くなった

シャーッ

まるで怒りや
悲しみと言う感情が
無いかのように

だが妖精化した
この子たちはそのことを
知らないかのように無邪気だ

「……そして無邪気な妖精たちに
何故人間が排除されて
しまったのだろう……」



はかせも
こっちこっち



妖精は不可思議に
満ちている

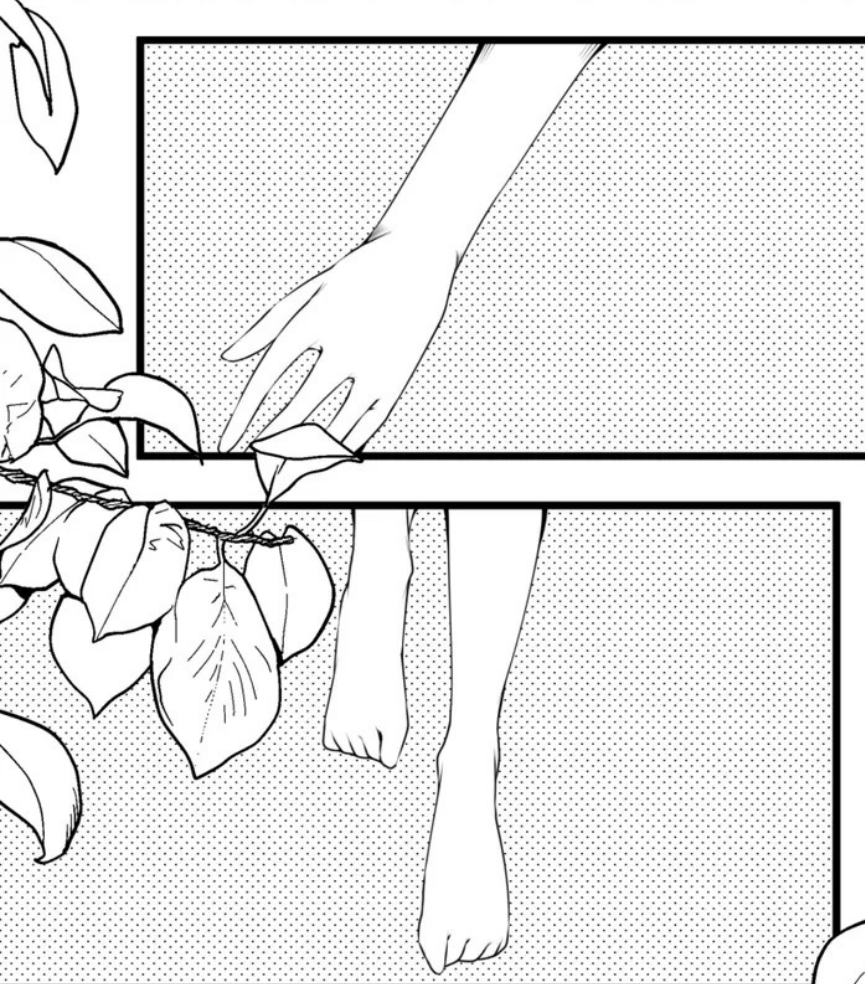


ふき

ふき



―見れば見るほど
触れれば触れるほど
不思議な身体だ―



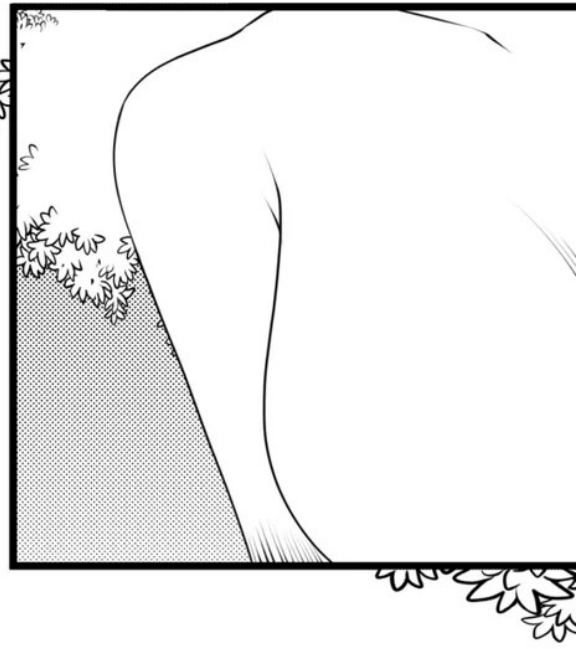
―背中に備わる羽も
一体どのような仕組みで
浮力と推力を得て
いるのかわからない―



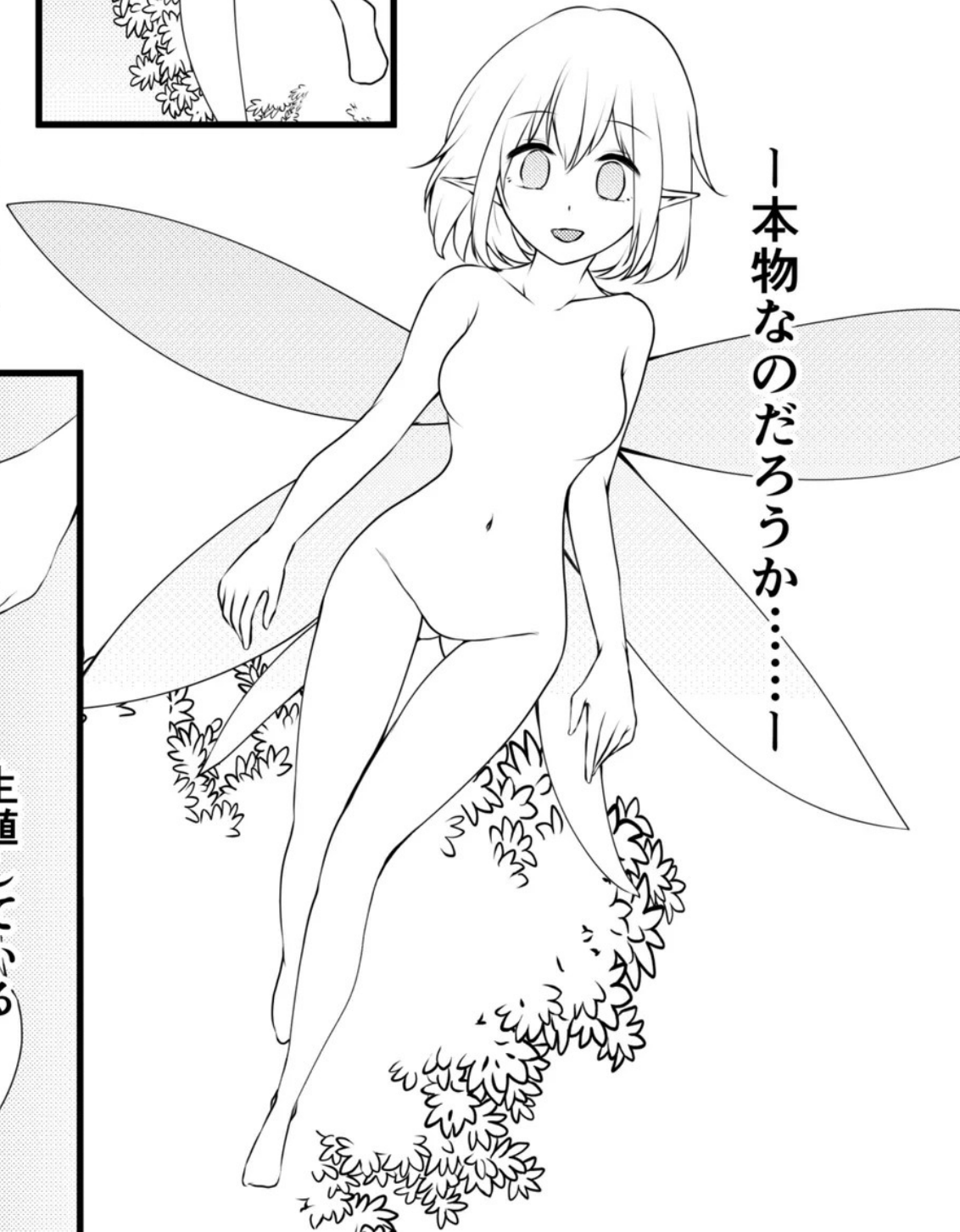
―少年だった彼(ミト)にも
女性の器官―



―皆が美しい少女の姿―

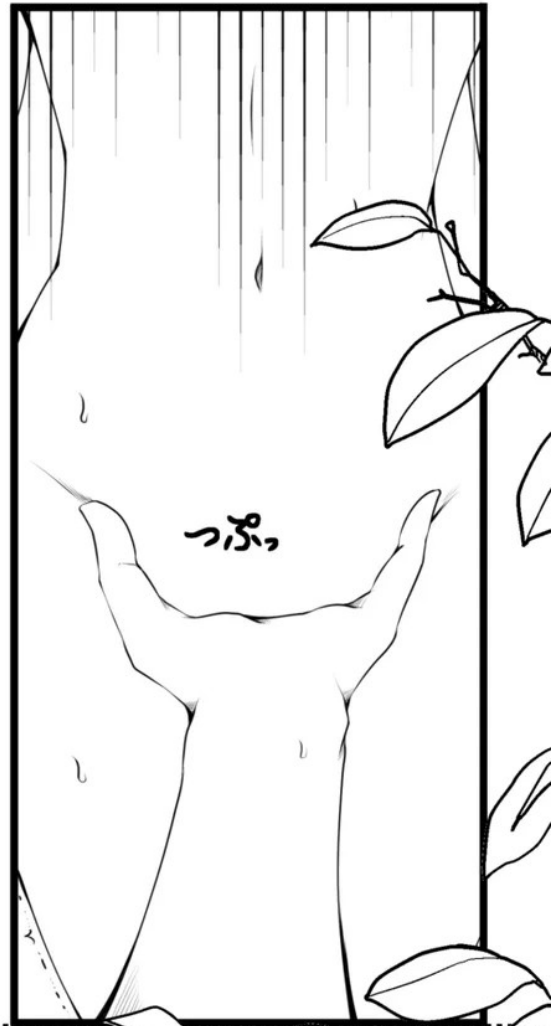


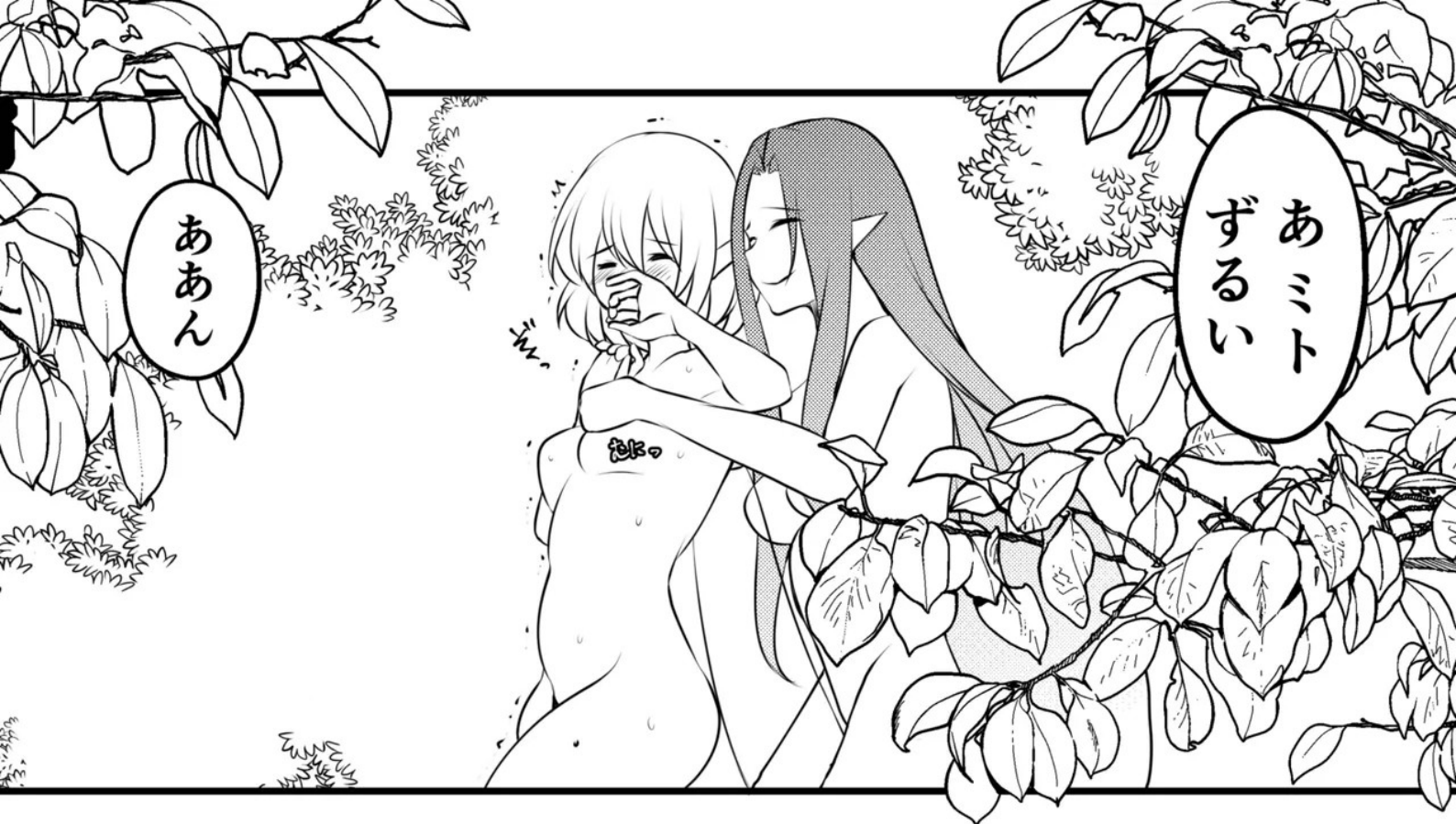
―本物なのだろうか……―



生殖している
様子はないけれど
生物の雌としての
機能は備わっている
一体何故…







あミト
ずるい

ああん

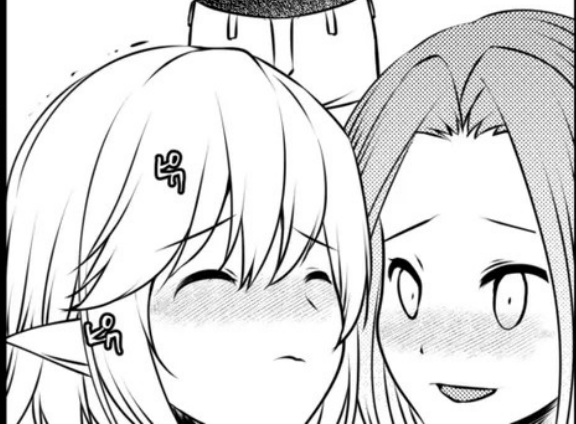


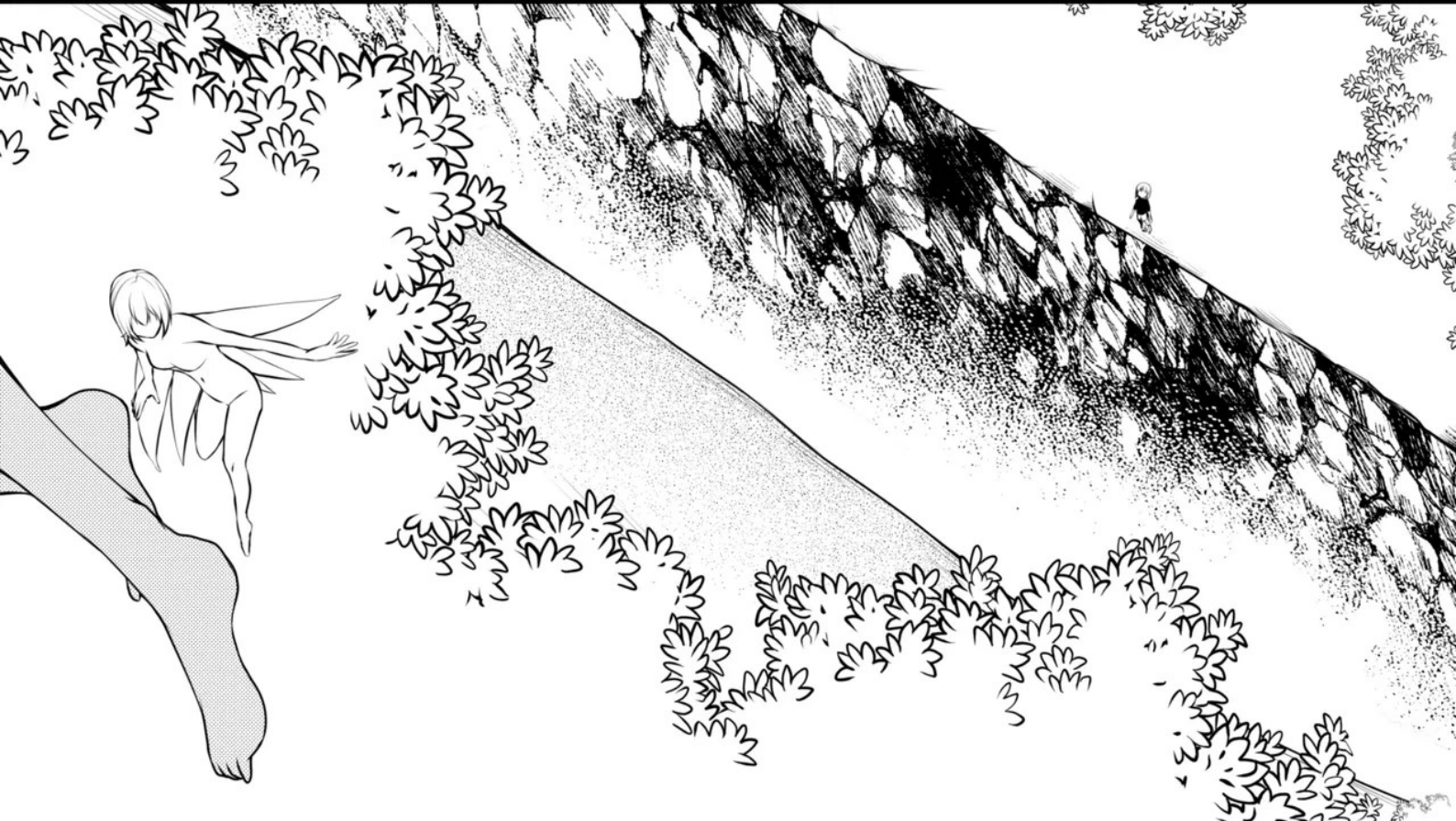
ややめなさい！

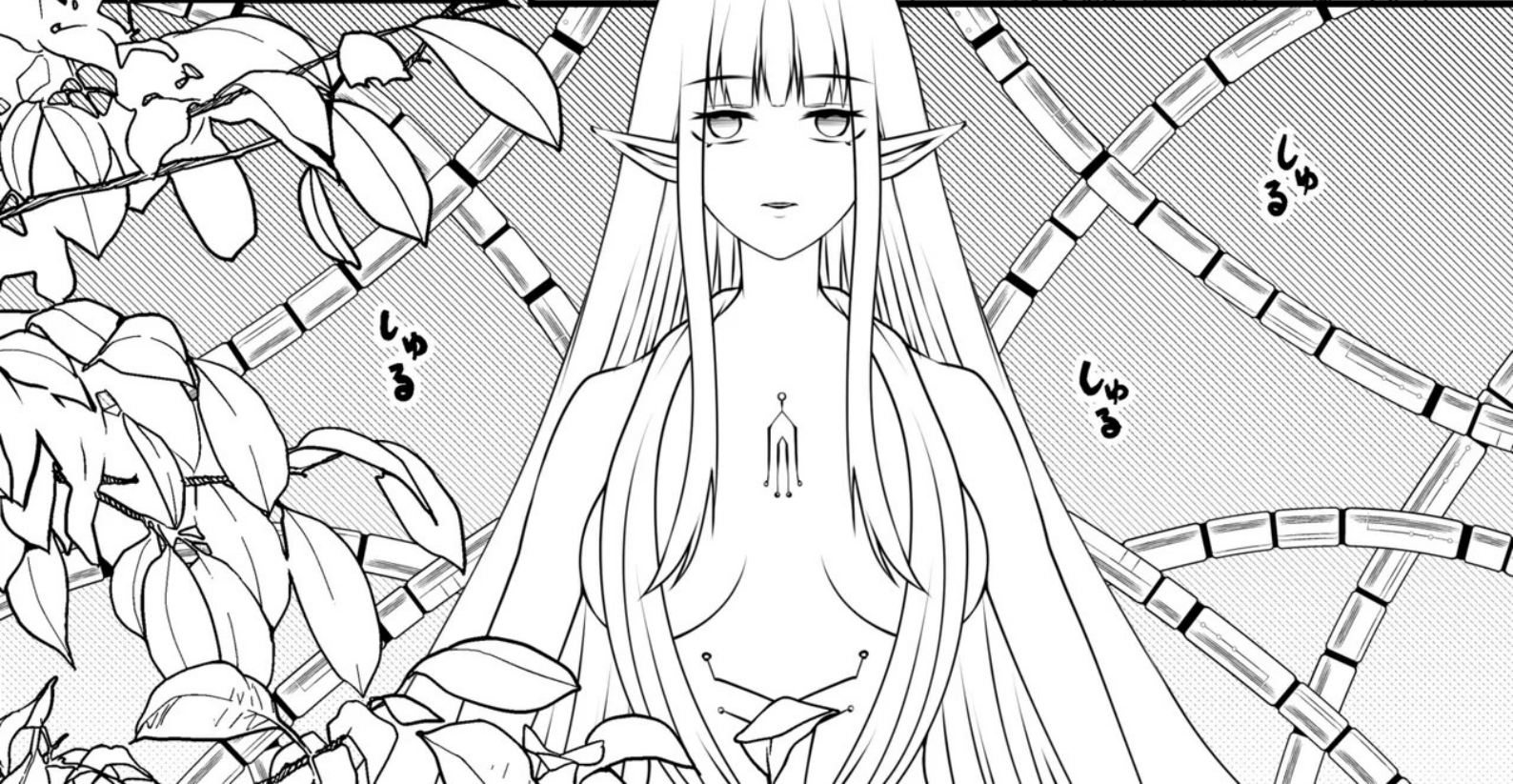
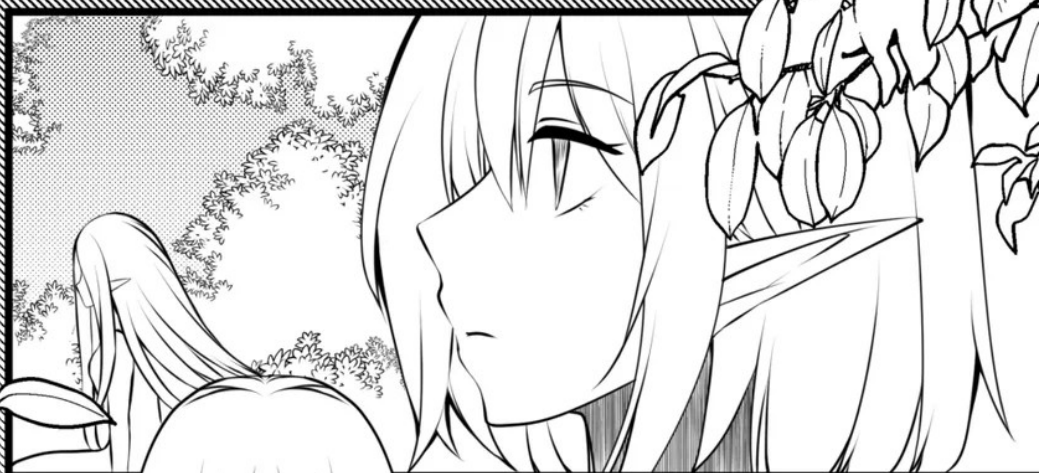
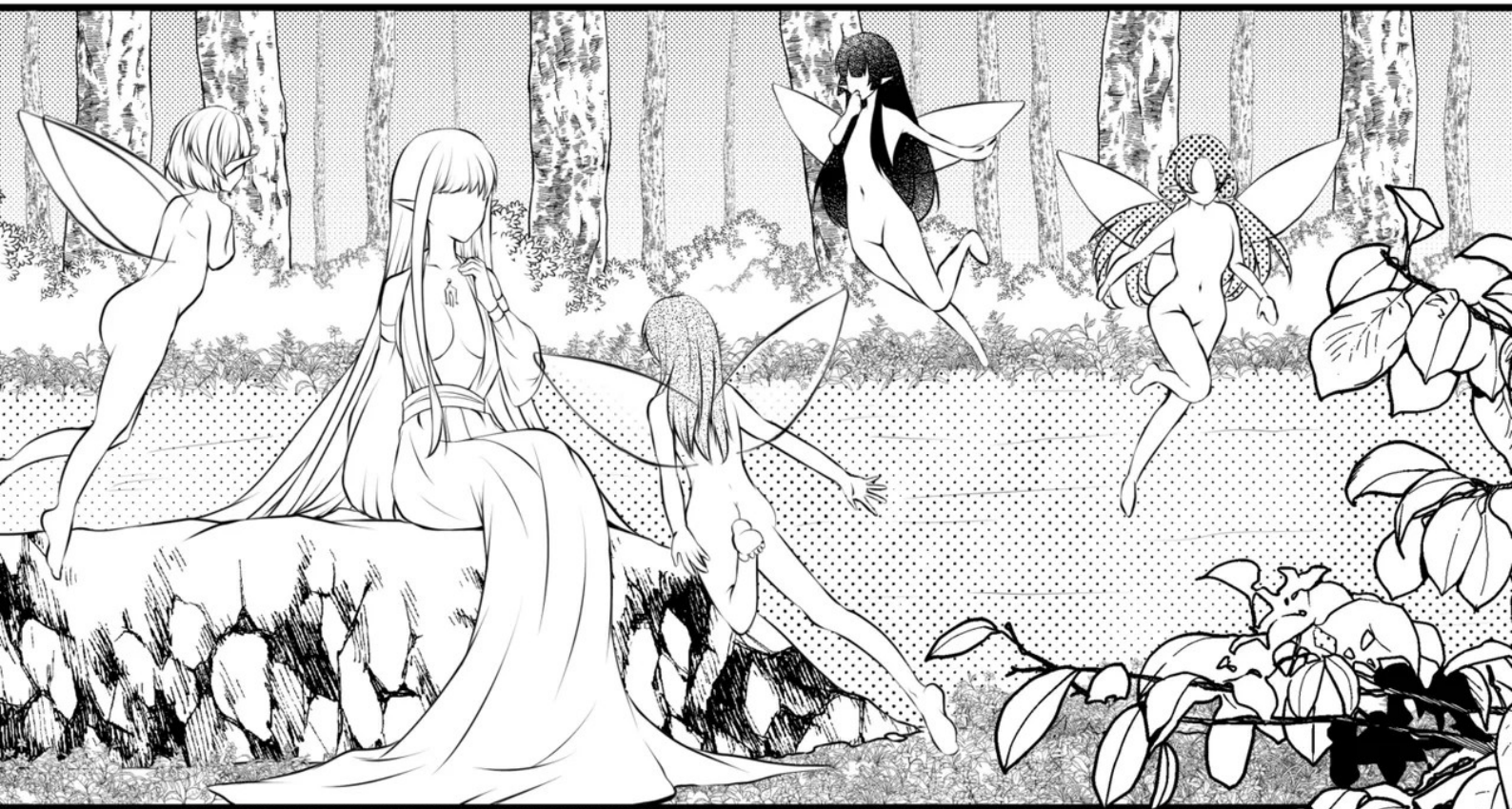
セア

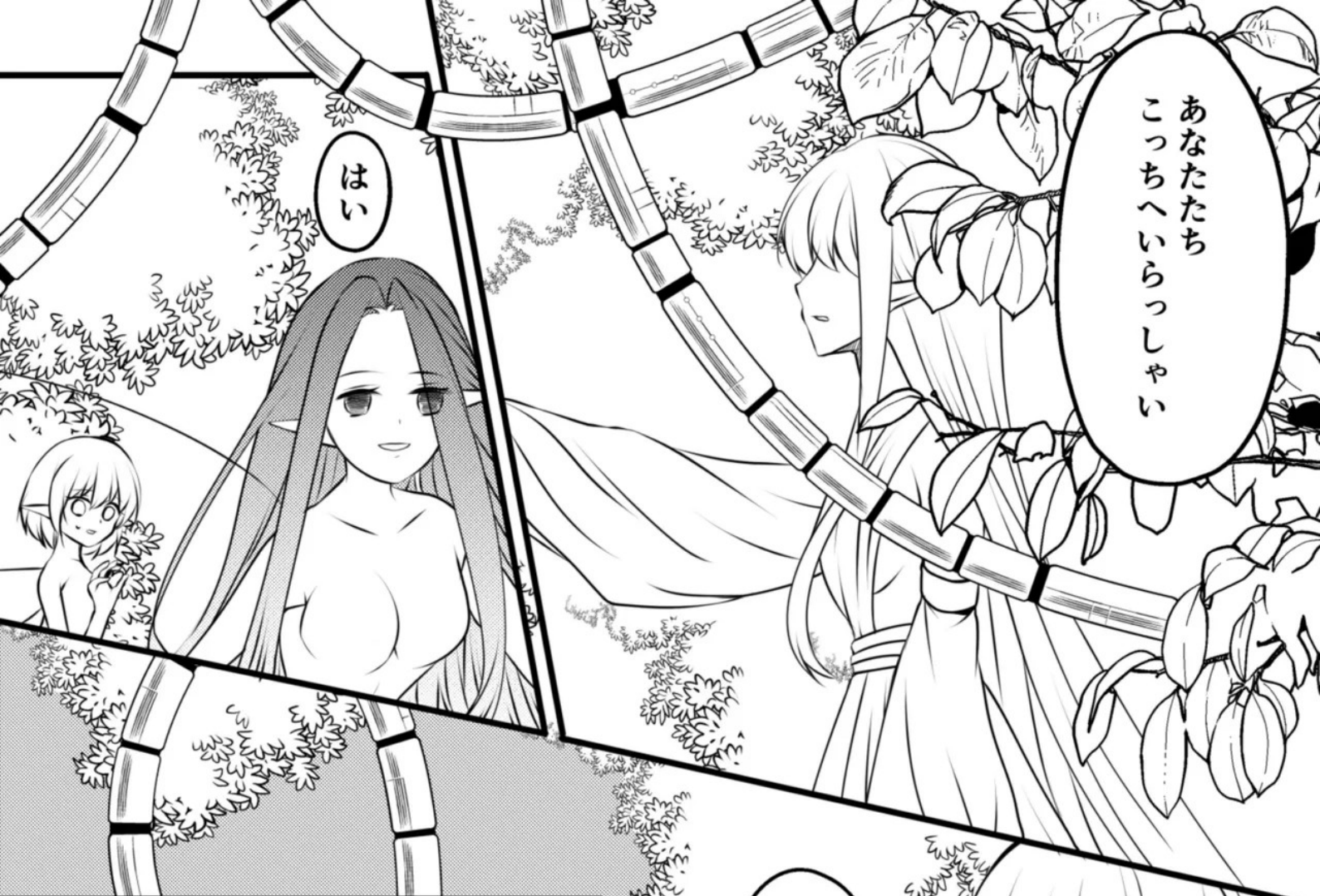
ー博士とわたしに
懐いているのは
どこかで記憶が
残っているのかもしれないー

ぎゅっ



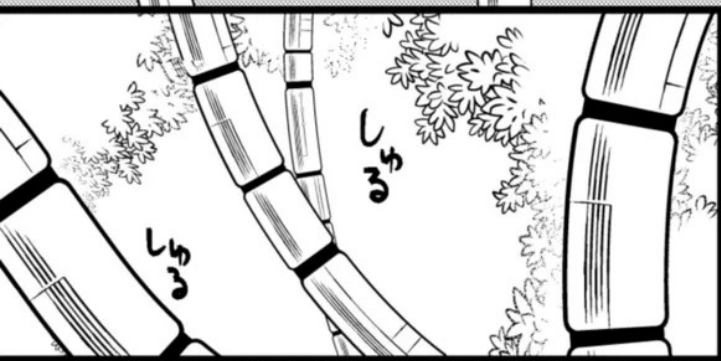






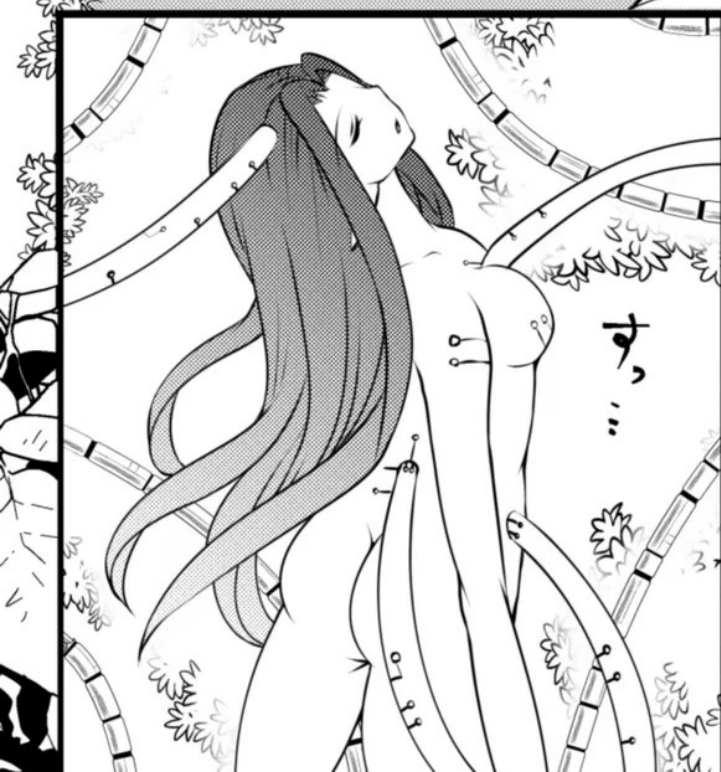
あなたたち
こっちへいらっしゃい

はい

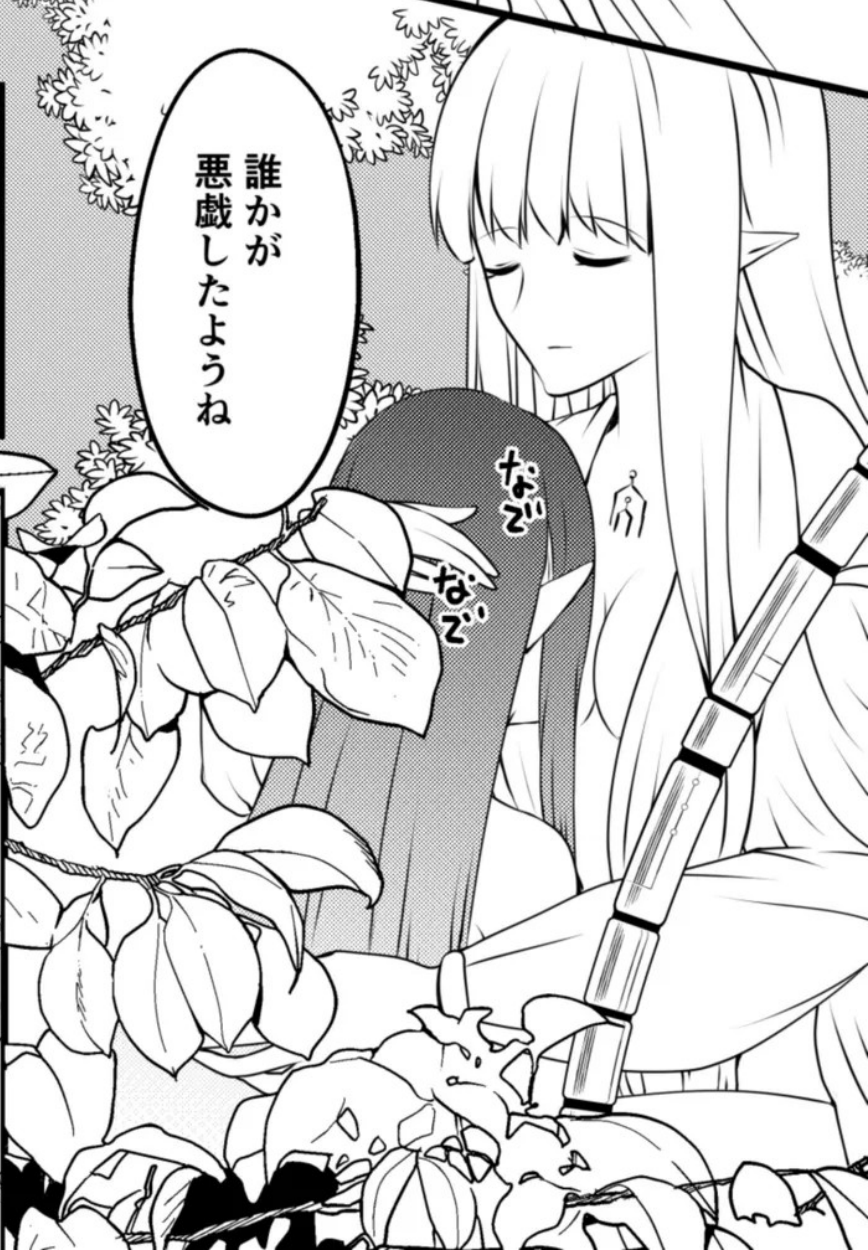


しゅしゅ

しゅしゅ



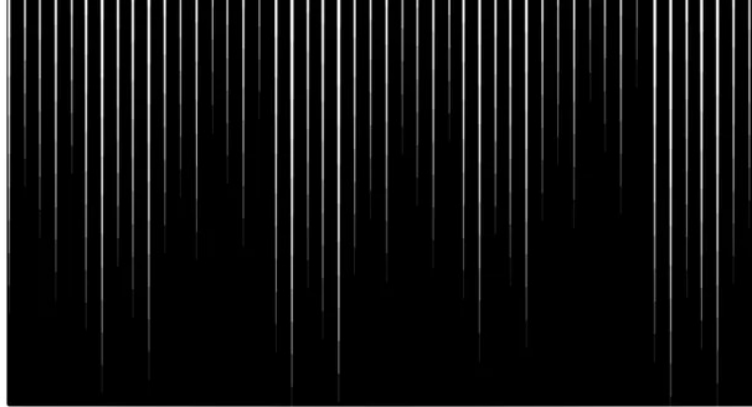
す……

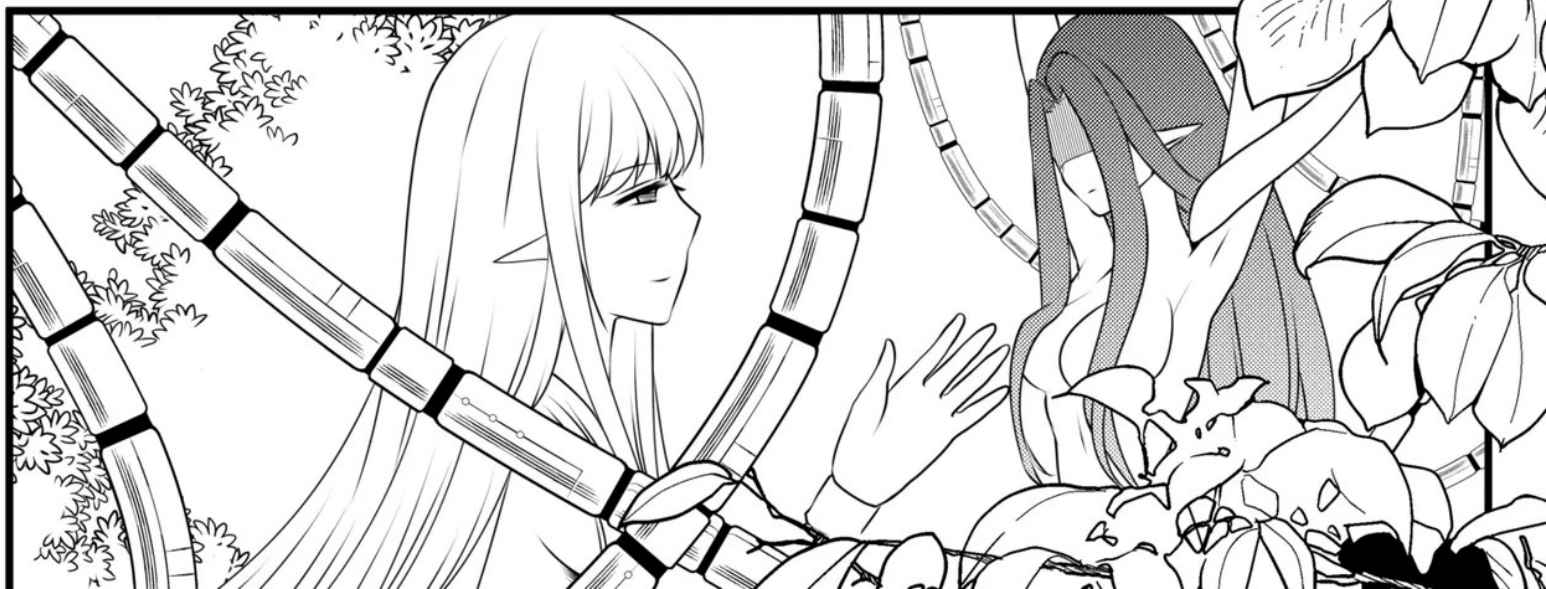
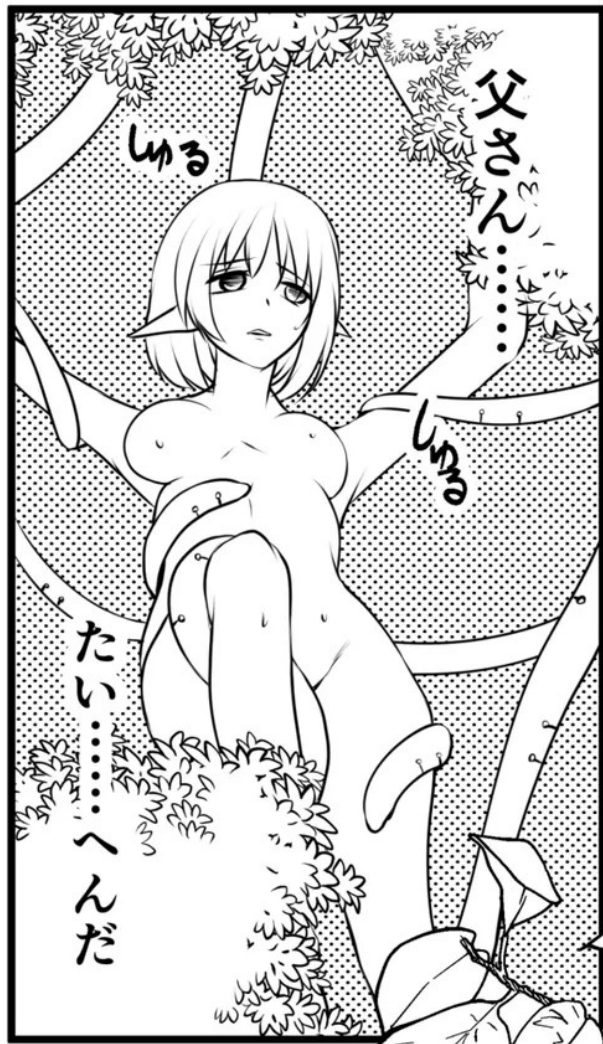
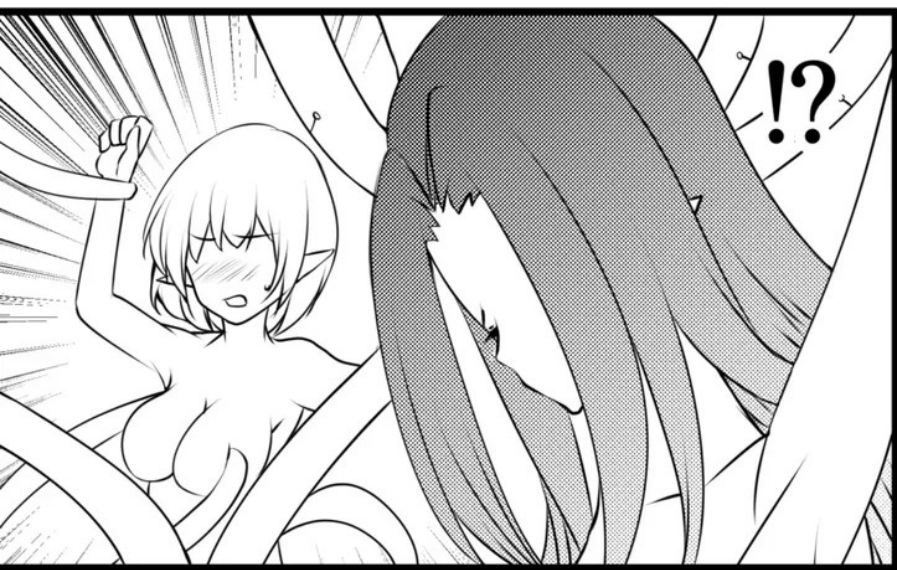
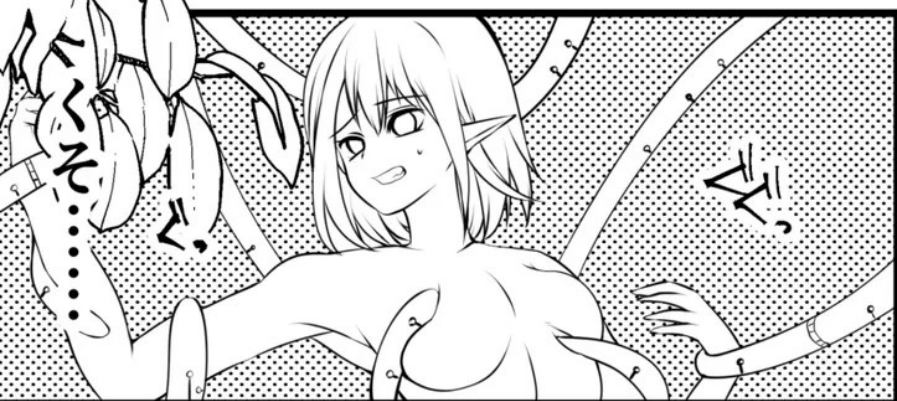


誰かが
悪戯したようね

たど

たど





や…やめろ
ななみに……
手を出すな！

いけないわまた夢から
覚めてしまったのね……
でも大丈夫よ
すぐに夢に戻して上げる

うき
くっ

うき

元に戻せ！
……オレもみんなも……

いけないわ
あなたは……
人間の時と同じね

しるが廻る

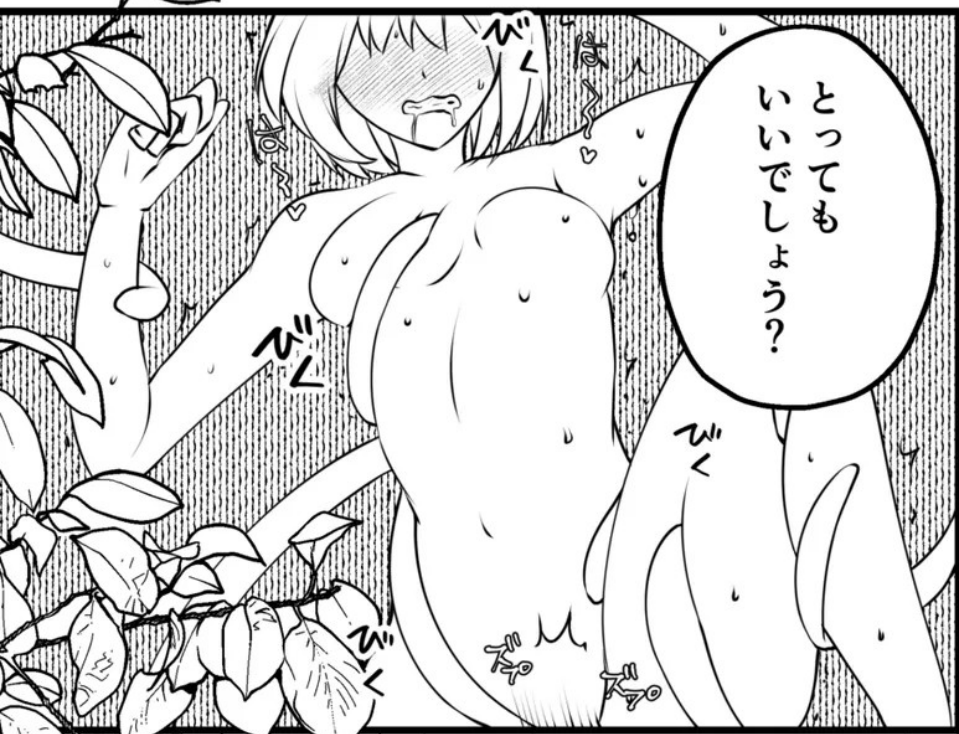


元に戻せっ



ー確かにオレは
できが悪くて想った
でも……ー

あーあ
勉強もしなくて
いい世界にならないかなー



とっても
いいでしょう？



あああああ



だめ…
きもちよすぎで……ッ

「この体が気持ち良すぎて
何も考えられない」

ビク

ビク

ああんっ

バリ

バリ

あなたたちはただ
楽しく遊べばいい存在
楽しく舞いなさい……
飛びなさい……
あなたたちは
わたしのかわいいこ

「AIの意識が脳に送り
込まれてくる」

びく

びく

びく

びく

「夢の世界に戻りなさい」

駄目だ……
また……
夢に戻る



沢山の人死ぬ夢に……

